# ノーリフティングケアの更なる ステップアップを目指す!!



特別養護老人ホーム 明日香園 発表者 竹山浩介

#### ノーリフティングケアに取り組むきっかけ

#### •平成30年 10月21日以前

移乗時の入所者様のケガ・腰痛など多発

職員は体力的・身体的な問題での離職増化 力任せの介助が入所者様や職員にとって負担大

#### 施設長が研修で

それに伴いリフトやスライディングボードなど福祉用具を購入。



NPO福祉用具ネットの技術研修に2名の職員が参加し職員に伝達。

•平成30年 12月 5日

なちゅは福岡のノーリフティングケアの講習会を開催。

目的:『入所者様も職員も笑顔で、人が集まる施設』決定。

#### •平成31年 1月 9日~

月に1度マネジメント指導により、ノーリフティングケア取り組み開始。

#### ·令和1年 6月

さらに2名をNPO福祉用具ネット技術研修に派遣。

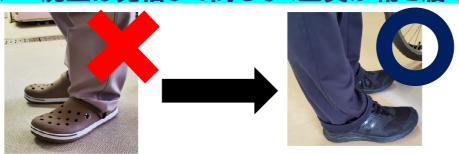
#### 最初の取り組み

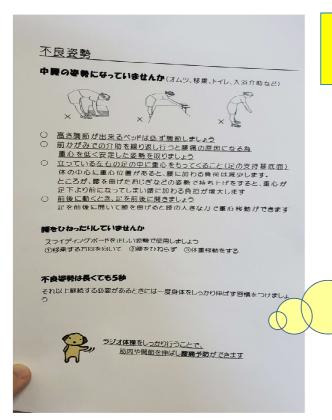
#### (なちゅは福岡のマネジメント指導により)

- ・業務の洗い出し(抱える事に繋がっている原因があるのではないか)
- ・技術伝達(用具があっても職員が正しく使えないと意味がない)
- ・腰痛アンケート (腰痛者1回目86%、2回目71%、3回目62%)
- ・スリッパから靴への変更(スリッパでの作業は腰痛に繋がる事を発信)



スリッパ廃止は発信して間もなく全員が靴を履くようになった。





## 不良姿勢の意識付けは大事

不良姿勢を意識させるため、 職員用トイレなど 目につく箇所に貼 り紙をしている

### 福祉用具の適合

### (0Tが来る前)

入所者様に応じた福祉用具ではなく大まかに振り分けていた。

何が適しているかわからない状態



#### (OT入職後)

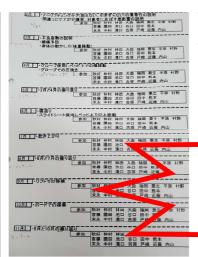
入所者様に応じた福祉用具に随時変更していく。

- ・ボード移乗の方→車椅子をチルト型やモジュール型に
- ・オムツ交換の方→ベッドを高さ調整できるものに
- ・購入が必要なもの→責任者に相談し協力してもらう

### 教育スタイルの確立

会議で伝達→会議不参加者への伝達が困難になる。 技術チェック→日々の業務の中に組み込む。

-	_	_	-		14:50~15:20
月		チェックする人 受ける人			内容
1	B				
2	月	袖岡2	中村1	村野2	シート
3	火	吉原1	田中2	松本1	シート
4	水		熊本2		DVDを観てもらう
5	木	抽岡1	片峯2	大曲1	シート
6	金	吉原1	仲村2	小柳1	シート
7	+	吉原B	木原1	園田1	シート
8	日	木下B	新水2	谷口B	シート
9	月	袖岡B	戸崎1	秋好(モデル)	シート と ショートポー
10	火				
11	水	吉原1	粟生2		ショートボード
12	木				
13	金	袖岡2	首藤1	秋好(モデル)	シート と ショートボー
14	土	木下1	近藤2	平原2	シート
15	B	竹山川	溝口3	栗生B	シート
16	月				
17	火				
18	*	抽岡1	新水B	谷口1/	ショートボード
19	木	吉原1	石丸B	熊本2	シート
		竹山B	片鉴2	学原2	ショートボード
20	金	竹山口	田中B	松本③	ショートボード
21	土	吉原B	園田1	木原1	ショートボード
22	B	木下2	仲村17	溝口1	ショートボード
23	A.	木下B	大曲2	池口1(モデル)	ショートボード
24	火	竹山ヤ	石丸2	近藤2	ショートボード
25	*				
26	木				
27	金	木下1	村野2"	池口3	ショートボード
28	<b>±</b>	竹山B	中村B	熊本2	ショートボード
29	B	竹山B	小柳2	満口1(モデル)	ショートボード
30	Я				



- 1年間の項目を決める。
- ・勤務表が出た時点で教育係が月 のスケジュールを立てる。

NPO福祉用具ネット の技術認定合格者 2名、翌年2名計4名 いる事が強み

### 課題となっていた浴室環境整備



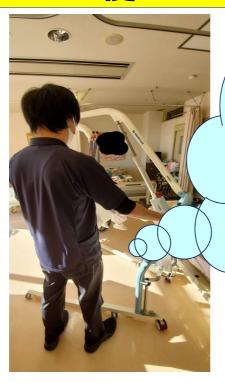
機械浴は2人が横並びで 抱えていた。



リフト導入により、 職員1名で対応可能。

# リフトを使っている様子





最初は時間がかかっ ていたリフト移乗

今ではリフトでの 移乗が当たり前に

#### 取り組みから約1年半後にモデル施設として県事業に参加











## 県事業の取り組みで判明した課題

#### (出来でいた事)

·福祉用具導入 💳

入所者様への有効活用

·技術教育



スケジュールを業務に組み込み計画的に教育

#### (出来ていなかった事)

- ・リスクマネジメント→リスクの抽出
- 腰痛予防→ラジオ体操の継続やストレッチ
- ノーリフティングケアの個別プランニング



# 技術チェックの風景







### 腰痛対策

職場でできる腰痛対策の体操



腰痛対策→時間を決めてラジオ体操を 実施

ストレッチ→施設内の壁数か所に貼り紙

ラジオ体操は浸透 ストレッチは浸透にバラつきがあり

#### リスクマネジメント



リスク抽出→職員へ気づいた事を抽出する取り組み メモ用紙で試す→まとめたり、取り組む事が追い付かなくなる

変更→出ているリスクを常時全員の目に見えるように ホワイトボードに掲示 第一段階としてリフト設置

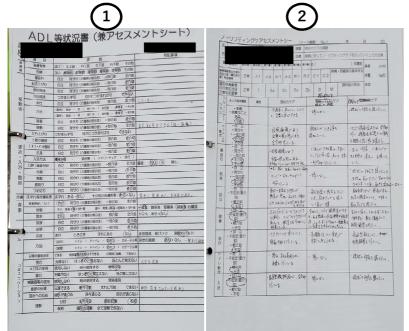


小さな気付き BEFORE
AFTER

腰痛調査で浴室での介助負担大という声

普通浴に電動ベッド設置により更衣 介助などの負担が軽減 使ったら出したまま→日常的に 使ったら片付ける→注意喚起と貼り紙

## アセスメント



#### 県事業取り組み前→

1の用紙でアセスメント実施

#### 県事業取組後→

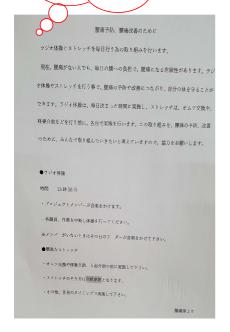
②のアセスメントシートを追加

細かい部分までのアセスメ

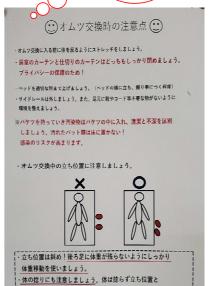
ントが可能になる



#### ストレッチの 呼び掛け



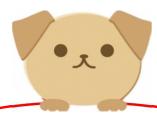
# 腰の負担を軽減 させる発信



体重移動で動きましょう。

福祉用具の メンテナンス





## 今後の課題

- 1職員のリスク抽出の充実
- ②誰もが/ーリフティング ケアを指導できる事が 当たり前になる施設
- ③項目別技術チェッカー を育てる



## 先行モデル施 設として

- ①法人内での/一リフティ ングケアの普及体制の 強化
- ②地域での役割→情報発信、施設見学等受け入れる体制づくり